

栃木県立那須特別支援学校の寄宿舎の閉舎を撤回し存続を求める意見書

栃木県教育委員会は、施設の老朽化及び施設利用者の減少等を理由に栃木県立那須特別支援学校の寄宿舎を令和5年3月末で閉舎するとしている。

本町は、那須特別支援学校管内で通学距離が最も遠く、また、降雪があることから、障がいを持った本町の児童・生徒が同校の寄宿舎を多く利用している。

また、現在においても、潜在的な寄宿舎利用希望者が多数存在しているとともに、今後においても、障がいを持って生まれてくる子はおり、それはどの家庭でも起こりうる。

さらに、那須特別支援学校の寄宿舎の閉舎には、次のとおり様々な問題があるため、本町福祉の後退に繋がるおそれがある。

- 1 障がいを持った子は、幼少時から仲間と過ごす体験が少ないため、指導員の支援による充実した寄宿舎生活は、将来、グループホーム等を利用する際に比較的スムーズに順応できる効果があるが、寄宿舎の閉舎によりその大切な機会を失う。
- 2 貧困を含めた様々な家庭の事情があるために入舎する児童・生徒もおり、これらの児童・生徒が自立に向けたきめ細かな指導を受けられる機会を失う。
- 3 スクールバスのバス停留所が遠く（現行：余笹川ふれあい公園）、また、積雪や車を所有していない家庭も存在するため、毎日の送迎の負担が増大する。
- 4 閉舎後のスクールバス運行ルートの見直しにより乗車時間が増えるため、障がいを持った子たちの負担が増える。
- 5 障がいを持つ子の兄弟姉妹は各家庭で毎日サポートをしており、ヤングケアラーを生む一因となる。また、これらの兄弟姉妹に対する親の関わりも減少するため、家庭教育の低下が懸念される。

よって本町議会は、栃木県立那須特別支援学校の寄宿舎の閉舎を撤回し存続させるとともに、今後の存続に向けて関係者と誠意ある話し合いを行うことを強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年3月14日

那須町議会議長 池澤 昇秋

栃木県知事 福田 富一 様
栃木県教育委員会教育長 荒川 政利 様